
3 室蘭市工業の将来像と基本方向

3.1 将来像

期待される姿

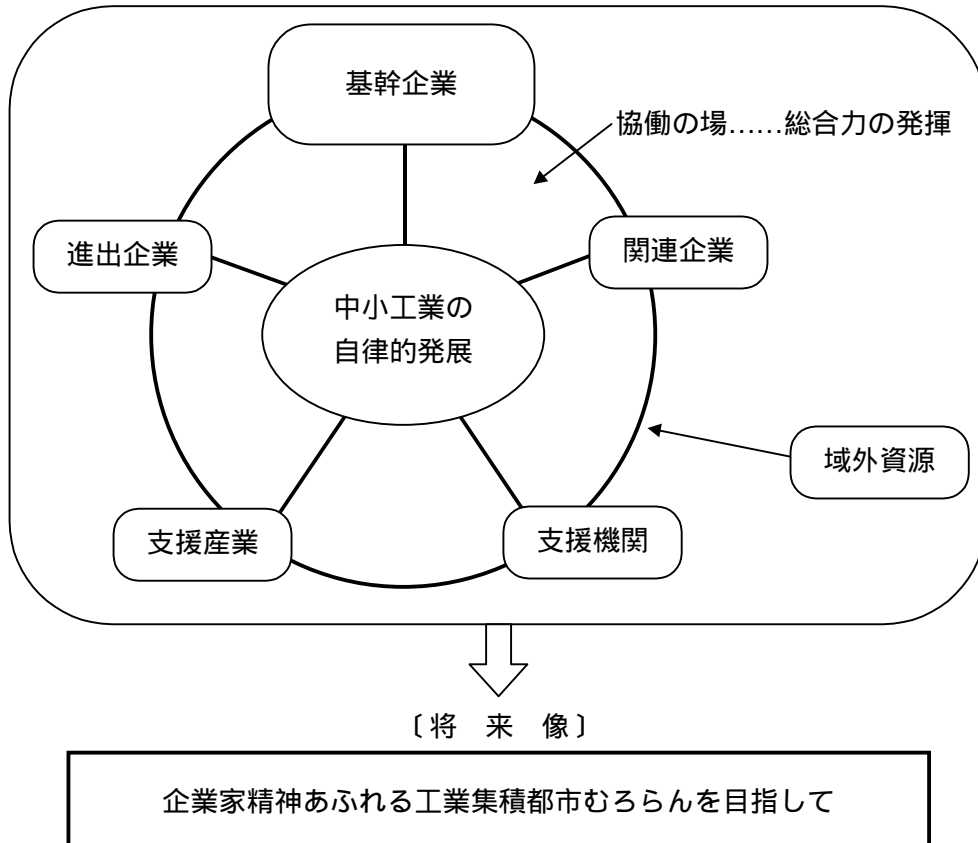
- これまで述べてきたように、室蘭市工業には、多くの面に対応の求められる課題もあるが、明らかな変化と小さいながらも将来への芽がみられることから、こうした活動を生かしながら新たな工業集積の形成を目指していく必要がある。
- 現在、わが国工業の活動は大きな変革の時期にさしかかっており、一方で社会経済環境は大きさもスピードも増大させて変化してきている。こうした状況のもとで、工業が地域経済の柱となっている室蘭市においては、内外の動向を見据えた方向付けが求められる。
- この工業振興ビジョンは、室蘭市の発展を支えるために、新たな室蘭型工業集積の構築を目指し、地域が一体となって取り組むべき方向を提案するものである。
- ここで室蘭市工業に期待される役割も含めて、将来目指すべき姿を描くと、
- 基幹企業のイコールパートナーとして活動的な中小企業が多く集積するとともに、基幹企業との関わりだけではなく、多様な加工・エンジニアリングを核とした産業技術の発信基地となることが必要である。
- こうした工業技術のハブとして機能し、北海道の産業・社会を技術の面から支えていくこと、さらに、その中から世界に飛翔する個性豊かな企業群が生まれることが期待される。

企業家精神の高揚をもとに

- こうした姿を支える大きな背景としては、地域としていかに創造性と多様性を蓄積していくかということに凝縮できる。創造性と多様性に富んだ産業集積を形成し、従前の「鉄のまち」に加えて新たな地域イメージを持ち、広く情報発信していくことが重要である。
- 室蘭市工業の持つ課題やポテンシャルからみて、それを実現するのは、旺盛な企業家精神を背景とした「中小工業の自律的発展」と「総合力を発揮するための協働」であるといえる。
- とりわけチャレンジ精神あふれる中小工業の自律的活動は発展の大きな原動力となる。専門技術の高度化に加えて、企画・営業・開発力の強化によって域外市場を開拓し、多様な活動を可能とする中小企業集積の形成が期待される。

- また、協働とは、地域資源のつながりをさらに深めることで、中小企業間はもとより、基幹企業及び関連企業、進出企業、支援産業、支援機関、域外の企業・機関などの効果的な連携である。
- 以上の点をふまえて、工業振興ビジョンの基本理念とでもいうべき室蘭市工業の将来像を

「企業家精神あふれる工業集積都市むろらんを目指して」とする。

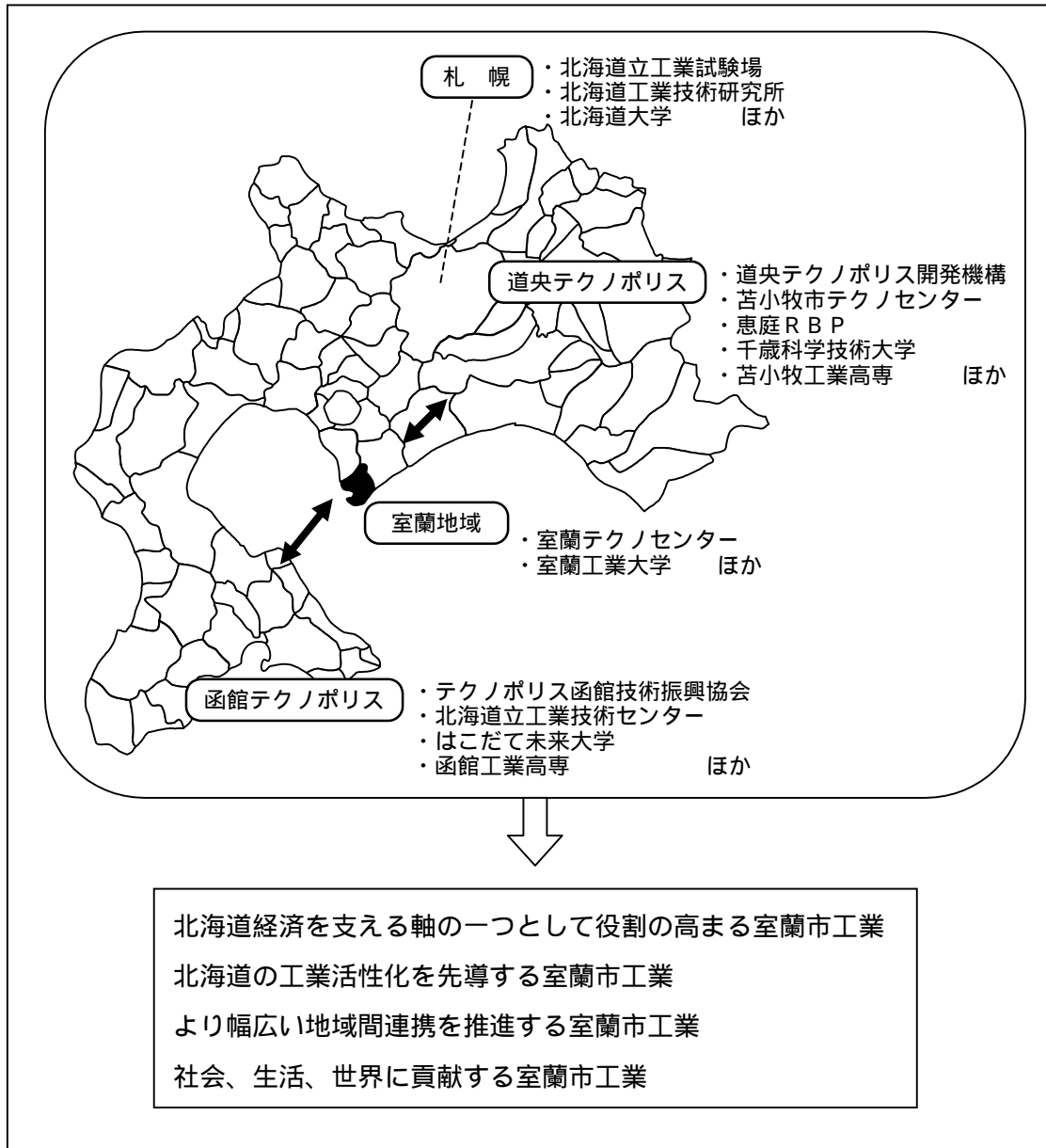


北海道経済を支える軸の一つとして

- また、室蘭市は地理的に道央テクノポリス地域と函館テクノポリス地域の間位置しており、両地域を支える、さらには、ともに北海道を支えるという意識に立って連携体制をより高次のものにする必要がある。
- 札幌圏から室蘭市にいたる地域は、これまで北海道経済の大きな軸となってきた。函館テクノポリス地域も道南のみならず北海道の一つの柱となってきた。そのことは将来においても変わらないものであり、昨今の厳しい経済環境においては一層役割が高まるものといえる。

- こうした地域間の連携を通して相乗効果の拡大を図っていくことが重要である。室蘭市工業には、より広域的な連携も視野に入れて、前記のような工業集積を実現し、将来に向けて北海道の工業活性化を先導するとともに、社会、生活、世界に貢献していくことが期待される。

図表3.1-1 札幌圏及びテクノポリス地域とともに北海道を支える室蘭市工業



図表3.1-2 室蘭市工業の発展の方向

